

運命と
呼ばないで

書籍化決定！4月22日発売
「運命と呼ばないで」特設ページ：
http://naxos.jp/special/no_unmei

ベートーヴェンと音楽家仲間たちの
エピソードをゆるやかなギャグテイスト
でお届けする、クラシック音楽レーベル・ナクソスの大人気
Web4コマ漫画「運命と呼ばないで」の書籍化が、遂に決定！
企画を担当されているナクソスさんに、書籍化への思いをお聞き
しました♪

ベートーヴェンに、のちにヨーロッパを席巻するピアニストに
なる、リースという愛弟子がいたことをご存知でしょうか。そ
して、練習曲で知られるチェルニーもまた、同じくしてベ
ートーヴェンの愛弟子だったことを…。

舞台は19世紀初頭。まるでプロレスのようなピアノ・バトル
が開催されていたこと。出版をめぐる裁判があったこと。音
楽や音楽家の存在意義が問われ直されていた時代であったこと。
ベートーヴェンは必ずしも孤独ではなかったこと。思わ
ずクスリとしてしまうようなお茶目な一面もあったこと。そ
んな師に振り回される(?)リースやチェルニーにも、またそれ
ぞれの物語があったこと。

1年4ヶ月にわたってWeb連載してきた、愛すべき彼らのエ
ピソードの数々を、本という形で新たにお届けできることを、
とても嬉しく思います。(ナクソス・ジャパン)

発売まで、あと1か月！みなさんお楽しみに！

未公開エピソードやコラムも満載!!
ベートーヴェン4コマ劇場
運命と呼ばないで
作：NAXOS JAPAN 画：IKE

■A5判/口絵8頁+128頁/4C+1C/
本体価格1,000円(税別)

配信アルバムも同時リリース!!
「運命と呼ばないで」公式サウンドトラック
ズンドコマーチ頂上決戦

●内容：全50トラック ●販売先：iTunes / Amazon MP3
(音楽配信専用アルバム)

「勇気づけのピアノレッスン」

No.2

＝「勇気づけ」とは何でしょうか？＝

前回、私はアドラー心理学の理念をピアノ指導に取り入れているとお伝
えしましたが、今回はそれについてもう少し詳しくご紹介しようと思いま
す。みなさまはもしかしたら、まだアルフレッド・アドラーをご存知では
ないかもしれませんね。ユング、フロイトと並び称されるアドラーは、オ
ーストリアの精神科医でもある心理学者です。「勇気づけの心理学」とも言
われるこの理論は、現在も多くの人々に生きる勇気を与え続けています。
「生きることに勇気が必要」とは、ずいぶん大袈裟だと思う方もいらっしゃる
かもしれませんが、でも、「勇気」は困難なことに負けず、それを乗り越
えていく力を人々に与えてくれます。おとなが子どもに「勇気」を与える
ことで、子どもは自分自身の力を最大限に発揮することができるになり
ます。私は、おとながアドラー心理学を学び、実践して、多くの子ども
たちに「勇気づけ」をして欲しいと願っています。

＝ピアノレッスンと勇気づけ＝

多くの保護者の方は、子どもにピアノを学ばせる素晴らしさを既に実感
していることと思います。音楽を学ぶことで得られることは多々ありま
すが、その中のひとつが「困難なことを乗り越える力がつく」ということ
ではないかと思います。ピアノを習得するには、とても時間がかかります。
少し練習したくらいでは、なかなか弾けないこともあります。でも、子
どもたちに音楽の楽しさを体験させたり、「勇気づけ」することで、困難は
乗り越えさせられると思うのです。現代を生きる子どもたちは、身近に手
軽な娯楽があり、どうしても楽なことを選びがちです。そんな環境の中で、
地道にコツコツと練習をしていくためには、おとなのサポートが必要なの
ではないでしょうか。そのために「勇気づけ」は、とても良い手段だと思
っています。今回は、もっと具体的な方法についてお話したいと思います。
どうぞ、お楽しみに。

松井美香

音楽家・音楽指導者・教育カウンセラー・
勇気づけマスター・「藤沢勇気づけの会」代表

<Facebook><https://www.facebook.com/mika.matsui.94>

<ブログタイトル>

～子どもから学ぶ～

「イキイキワクワク親子コミュニケーション」

URL：<http://ameblo.jp/makeeachangewithlove/>

「おんがくドリル」シリーズ、27年目にして初!!



おなじみ「新版おんがくドリル」シリーズですが、もとのシリーズが
産声を上げたのはなんと26年前！こんなに長い間、みなさまにご
愛用いただいていることに深く感謝申し上げます。そこで…という訳
ではないのですが、このたび初めて「おんがくドリル」シリーズ全体
をご案内するガイド「おんがくドリル Navi」をつくりました。体系を
俯瞰するのは27年目にして初めての試みです。(か)

レッスングッズ、続々誕生!

おんがくドリルの
おんがくのーと

新登場!

おんがくドリル
レッスングッズセット

ケース
五線ノート(2段)
レッスンノート
出席カード
シール
メッセージカード(6柄12枚)

こんなにはいって500円!!(本体)



「おんがくドリル Navi」

「おんがくドリル Navi」と
「おんがくノート」サンプル
も
はいています!

糸編集部のつばせいったー!

地元で有名なしだれ桜はお寺にあります。迫力のある大きなしだれ桜です。お姫様のような美しい名前のついたしだれ桜です。(お)

Tsubuyaitter.....

twitter やってます! @gakken music

Web版も
ある!
バックナンバーが
閲覧できる!
Webならではの
情報が満載!

学研 おんがく通信

4月号

2014年3月25日

Gakken
(株)学研パブリッシング 音楽出版事業室
〒141-8412 東京都品川区西五反田2-11-8
Tel. 03-6431-1220

学研 おんがく.net <http://gakken-publishing.jp/ongaku/> 学研 電子ストア <http://ebook.gakken.jp/gstore/>

今住んでいる家の近所には音大があるので、コントラバスの大きなケースが目を通り過ぎていくなっていくことも今では日常の風景となりました。ケースから漏れ出る芸術の香りを近所の野良猫たちも感じているようで、行き交う音大生を見守る彼らの表情に優雅さを感じます。(さ)

ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン

「熱狂の日」音楽祭へ行こう!

2014

毎年東京で開催されている、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポンは、今年で開催10回目を迎えます。記念すべき10回目のタイトルは、「祝祭の日～Jours de Fêtes (ジュール・ド・フェット)」。"Fête"は"Festival=祝祭"の意味があります。フランスで若者が「フェットしよう!」と使うときは「パーティしてはじけよう!」というニュアンスになるようです。



17世紀から21世紀の現代まで、クラシック音楽の発展を担ってきた作曲家たちが大勢揃いますので、とてもバラエティに富んだプログラムになりそうです! イメージ・ビジュアルのピアノに寝転ぶモーツァルトのように、リラックスしながら音楽を楽しむのももちろん良いですが、ほかの作曲家たちのように、ぜひフェットしましょう!

そのほか金沢、新潟、びわ湖での開催も予定されています。こちらは東京のテーマと異なりますが、中世から19世紀にかけて、ウィーンやプラハで活躍した作曲家(ブラームスやドヴォルザークなど)が取り上げられるようです。詳しくは各公式サイトをご覧ください♪(の)

楽しいイメージ・ビジュアルを描いているのは、チェコの大人気イラストレーター、イジー・ボトルバ氏。今回のビジュアルは、過去にないへん華やかで賑やかな雰囲気です。今にも音楽がきこえてきそう!...どうやら、ここはパーティ会場のような感じ。10歳の誕生日を迎える「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン」のお祝いに、10名の作曲家<ヴィヴァルディ、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、ショパン、ブラームス、チャイコフスキー、ドヴォルザーク、ラヴェル、ガーシュウィン>が集まりました。彼らは、ラ・フォル・ジュルネの創始者であり芸術監督のルネ・マルタン氏の「C'est la Fête! (パーティしよう!)」という呼びかけに応え、思い思いに音楽を楽しんでいます。お祝いときには、大切なひとが集まりますので、東京のラ・フォル・ジュルネにも、10名の作曲家がそれぞれ「友だち=音楽家仲間」とともに駆けつけてくれました(たとえばモーツァルトはハイドン、ショパンはリスト、チャイコフスキーはラフマニノフなどと一緒)。

ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン「熱狂の日」2014公式サイト
→http://www.lfj.jp/lfj_2014/
公式レポートブログでは、ナントの様子や東京の開催について紹介されています!
→http://www.lfj.jp/lfj_report/

cresc. a tempo P Pizz. rit.

名曲誕生物語

音楽作家 ひのまどか

《革命のエチュード》 ショパン作曲



(漫画：山口育孝)

ショパンは多分、いえ確実に、過保護に育てられました。3人姉妹の中の1人息子、病弱、音楽の天才ときたら、大事に大事に育てなくてどうしましょう！結果ショパンは家族からは元より、師たちから、友人たちから、ポーランド貴族たちからも大切にされ、国中から期待を寄せられる希有な存在になりました。その期待ゆえに、外国の大都市での成功を自らに課さなくてはならなかったのです。

ワルシャワを発つ時のショパンの胸中は察して余りあります。20歳になっていたとはいえ、心優しく、繊細で、気の弱い若者は不安と緊張の固まりになっていたでしょう。その彼を支えようとウィーンに同行してくれた親友ティトウスが、ロシアの圧政に抵抗するワルシャワ蜂起を聞き急遽ポーランドに帰った後、ショパンはポーランドに冷淡なウィーンに取り残されました。8ヶ月後、何の成果も上げられないウィーンに見切りを付けてパリに向かう途上のシュトゥットガルトで、彼はワルシャワ陥落を知ったのです。

全12曲の《エチュード》Op.10は、番号順に作曲された訳ではありません。今の配列は出版の際にショパンが決めたもので、作曲年代はかなり前後しています。最新の研究では、第1番と第2番がワルシャワを発つ直前、第6番と第7番がウィーン滞在中、そして第12番《革命のエチュード》がワルシャワ陥落を知ったシュトゥットガルトで着想され、それ以外はパリの初期に書かれたと言われています。ワルシャワ時代の繊細で詩情あふれる作品群や画期的な演奏技術を冷静に盛り込んだエチュード1、2、6、7番と、12番とは、どんなに違ってい

るでしょう！ここにはショパンの怒りの爆発、反抗の叫び、むせび泣きが激しくうねるアルペッジョ、叩き付けるオクターブとなって迸っています。《革命》は、正にショパンの人生の転機を告げる曲、弱かったショパンが「音楽の革命家」に生まれ変わったことを告げる曲なのです。



シュトゥットガルトでワルシャワ陥落を知ったショパン

学研音楽まんがシリーズ「世界のピアノ名曲10-名曲誕生物語」より

ポーランドの歴史

ショパンが生まれる前、弱体化したポーランドに、ロシアやオーストリア、プロシヤ（現在のドイツ）といった周辺の大国が進出し、1772年、1793年、1795年の三度に渡ってポーランドを分割します（地図参照）。ナポレオン戦争中にポーランドはワルシャワ大公国として一時復活しますが、ナポレオン軍が敗北すると再び分割され、ロシアの支配下におかれました（1815年ウィーン会議）。長い間、自国を失っていたポーランドの人々が立ち上がったのが、1830年11月のワルシャワ蜂起（11月蜂起）です。この革命は成功したかのように見えたが、翌年1831年の9月、ショパンはシュトゥットガルトでワルシャワ陥落の知らせを聞くことになりました。この陥落で、ワルシャワの街は焼け落ち、多くの市民が犠牲になったといえます。



▲三回目のポーランド分割（1795年）

●革命のエチュード ～《12の練習曲》Op.10-12



ワルシャワ陥落を知ったシュトゥットガルトで着想したといわれている《革命のエチュード》は、その後たどり着いたパリで練習曲集としてまとめ、リストに献呈しています。ヴィルトゥオーゾ*として有名なリストがすぐに弾くことができずに周囲を驚かせたというエピソードも。その後、リストは数週間練習をしてショパンのテクニックを理解したとか。

*ヴィルトゥオーゾ：超一流の技術を持った演奏家



名曲誕生のおはなしがまんがで読める！

- 学研音楽まんがシリーズ 世界のピアノ名曲10-名曲誕生物語- 世界のクラシック名曲10-名曲誕生物語- 監修：ひのまどか

■各：菊判/176頁/1C/CD付き 本体価格1,600円（税別）

新刊 好評発売中

4月13日は「メサイア」が初演された日!



Georg Friedrich Händel (1685—1759)

数年前にアイルランドに旅行しました。ヨーロッパの西の果てにある辺境の島国です。丸山薫（1899~1974）という詩人に「汽車にのって」という詩があって、「汽車に乗って／あいるらんのやうな田舎へ行かう／ひとびとが祭りの日傘をくるくるまはし／日が照りながら雨のふる／あいるらんのやうな田舎へ行かう」とうたわれているケルト民族の国です。首都はダブリン。ギネスビールや20世紀を代表する文豪ジェームズ・ジョイスで有名です。首都とは言いながら、高層建築物などはない、大西洋からの偏西風が吹きぬけていく広い大空の下に、私たちが今の時代ともすれば忘れてしまいがちな“人間的な暮らし”が営まれているような街でした。ダブリンでは、宿はそれほど値の張らない三ツ星クラスだったのですが、その屋号が「ジョージフレデリックハンデルホテル」という名前だったのです。場所はパブなどが集中している飲食店街であるテンプルバーのはずれ、フィッシュンブル街です。狭いフロントの奥の壁に屋号の由来の説明書きが掛けられてい

Happy Birthday

4月 生まれの音楽家

- ♪セルゲイ・プロコフィエフ (ロシア/作曲家、ピアニスト、指揮者/1891.4.23)
- ♪デューク・エリントン (アメリカ/ジャズ作曲家、ピアニスト、バンド・リーダー/1899.4.29)

WEBで詳しく紹介しています！

つむりの練習手帳

つむりは関ジャニ∞の大倉君が好きです。だから、大倉君の出ているドラマがある日は夜ふかしをします。そうすると、翌日のピアノの練習はほんやりがさらに加速しちゃって、なんだかずいぶん長い曲を弾いているなあ、と思ってたら「終われなくなってるんじゃない!?」…。繰り返しているうちに、迷子になったみたいです。本番、大丈夫かなあ。(トホホお兄)

つむり現在の楽譜
 ☆こどものハノン②
 ☆こどものパッサ
 ☆こどものためのピアノ曲集「南の風」
 ☆新版こどものソナチネ①

ました。そこには、1742年の4月13日にこの場所でヘンデルのオラトリオ「メサイア」が初演されたと書かれていました。ドイツのハレ出身のゲオルク・フリードリヒ・ヘンデルは英国に帰化し、名前も英語読みになって、いまやダブリンのホテルの屋号にもなっているのです。当時のアイルランドは英国の事実上の植民地で、支配階級は宗主国のイングランドからやってきていました。おそらく「メサイア」の聴衆の多くはイングランド出身の「アングロ・アイリッシュ」と呼ばれる人々だったと思います。600人収容できるホールに700人ほどの聴衆が詰めかけたそうです。ロンドンでのオペラ興業がうまくいかずに大きな負債をおっていたヘンデルにとって、この「メサイア」の成功は失地回復の契機となったようです。「メサイア」とは救世主を意味するメシアの英語読みで、内容は英訳の新・旧約聖書の文言をそのままパッチワークのように構成して、間接的にイエス・キリストの生涯を想起させるものです。なんととっても合唱曲「ハレルヤ」が有名ですが、全編佳曲の宝庫です。わが国ではクリスマスのシーズンによく演奏されるのですが、4月に初演されたことからわかるように、もともとは復活祭（あるいは受難節）の時期に演奏されることが多かったようです。「メサイア」がダブリンで初演された詳しい事情や経緯はさておき、私のなかでは「メサイア」という大曲と古都ダブリンの街並みがなぜか分かち難く結びついているのです。(え)

今月のあかね先生

「ド ド ソ ソ ラ ラ ソ・・・」ピアノ導入期の曲に多い同音連打。ここで音がブツブツと途切れてしまっても、「導入期だから仕方ないか・・・」とあきらめていませんか？今回は、同音をなめらかに弾くための指導法をご紹介します。ウェブサイト「学研おんがく.net」で動画もご覧いただけますので、のぞいてみてくださいね。(いも)

●同音をなめらかに弾くための指導ポイント (『はじめてのテクニック ピアノのほん①』P46-47より)

同じ高さの音が続くときに（同音連打）、なめらかに弾く奏法を学習します。同音連打では、2つ目の音が強い音になりがちですが、手首の使い方によってなめらかに弾くことができます。右上の図のように、鍵盤から指をなるべく離さないようにし、鍵盤の奥の方向へ手首をやさしく“ゆらゆら”させるイメージです。小さな子どもは、ゆらしすぎるとコントロールしづらいので、気をつけて指導してください。

“ゆらゆら”させるイメージ

手首を柔らかく使ってゆらす

今月のセミナースケジュール

4/18(金): [新潟県/長岡]北越楽器 長岡本店 『子どもが飽きないリズムのレッスン-導入編』

4/23(水): [北海道/札幌]島村楽器 札幌クラシック店 『1音からはじめる楽しいピアノ・レッスン』